

2019Japan National Team Report "監督"



報告者氏名	服部 祐太
大会名	アジア・オセアニア選手権
開催地	オマーン・ムツサナー
大会期間	2019年9月30日～10月7日(9月28日出国、10月8日帰国)

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA海外派遣担当岡田までメールにて送付して下さい
- JODA理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい
- 帆走指示書のコピーを添えてください。

現地までの旅程	成田空港 ドーハ マスカット (カタール航空) 関西空港 ドバイ マスカット (エミレーツ航空) チームメンバーが東京～九州と幅広い地区に分散していたため、一か所に集合せず、現地空港で合流することで時間・経費削減をしました。アジアチームは10人(保護者入れて20名)いますので、結果として2つに分かれて行動したことでフレキシブルな時間の使い方が出来良かったと思います。
旅行代理店	三鶴航空サービス株式会社 (大手代理店を含む数社から相見積を取った上で、アジアチームのサポーターから紹介頂いた会社に決定しました)
渡航費用	往復航空券のみ(空港までの費用含まず) 成田発: 1名 13.2万円 関空発: 1名 15.8万円
エントリー料	※ 実際に支払った通貨で記入して下さい ● 選手: 495ユーロ x 10名分(大会期間中の宿泊・全食事含む) ● 役員: 550ユーロ x 3名分(大会期間中の宿泊・全食事含む) 大会受付時IODAに対して傷害保険費用を現金で支払い: 10ユーロ x (10名+コーチ1名)分
一人当たりの宿泊費用	選手+役員: エントリーフィーに含む+アーリー宿泊55ユーロ(1名分) サポーター: 5.7万円(9日分)
その他食料費	9月29日到着時昼食: 80オマールリアル(約2.2万円) リゾートホテルのため、ホテル内の食費は日本の倍近い感覚であった。 《その他出費》 観覧艇は前日5PMまでにレースオフィスに申込みするルールになっていましたが、当日でも予約が可能でした。1日20ユーロ(1名)で延べ16名分乗艇しました。 10月7日はofficial departure dayでしたが、帰国フライトが夜のため終日観光を国内代理店経由で申し込み(観光バスチャーター、日本語ガイド、ランチ込みで約1.3万円)
チャーター料金	● サポートボート: 650ユーロ x 1艇分 ● OPチャーター: 490ユーロ x 10艇分

大会本部の対応	<p>各種noticeは他のIODA大会と同様に電子化されておりIODAのアプリ画面で確認する方式を取っていました。日々刻々と変わる情報については公式掲示板まで見に行く必要が無い ため、時間の節約になると同時に関係者(日本選手団内服務)への周知がされやすかったと 思います。一方、帆走指示書の発行が大会受付以降であり、英語を母国語としない日本人 にとっては、事前の十分な読み込みが出来ず、不満が残りました。 上記の通り、今後ますますデジタル化が進むことから、選手団の通信環境確保(シムの購入 等)はより一層重要となります。</p> <p>計測は冷房の効いた、屋根付きのスペースで行われましたが、フル計測のため10人完了す るまでに3時間近く掛かっていました。未使用のセールを持ち込んだものの、セール計測で トランス外れが指摘されたこともあり、かなり厳密に行っていた印象を受ける。非常に時 間を取られるため今後の計測簡素化を期待したい。</p> <p>また、ホテルとハーバーが一体となっていることは、とても便利で時間が有効に使えた。</p>
チームリーダーミー ティングの様子、内 容	<p>大会事務局、レース委員会、IODA、ジュリーから一言ずつ日々のポイントを紹介(計15分程 度)。非常に和やかな雰囲気でした。</p>
選手達の様子で 気をつけたこと	<p>時差(5時間遅れ)、気象条件(日中最高気温:37℃、湿度:80~90%)の違いによる体調管理 に気をつけました。また時間管理・整理整頓をさせることで生活のリズムを極力崩さず on-offを切り替えられるよう心掛けました。</p>
食事はどうでしたか	<p>食中毒等の心配は一切ありませんでした。強いて言えば、水道水は極力飲まないこととし ましたが、ペットボトルで配布される水が十分にあったため、水道水を飲まざるを得ない機会 はそもそもありませんでした。生野菜による下痢もありませんでした。</p> <p>ホテルの食事の味は平均以上だったと思います。口に合わず部屋に戻って日本から持って きたレトルト品を食べなければ過ごせないようなことはありませんでした。選手・役員に配ら れるランチボックスも美味しく食べることが出来ました。ただ体力消耗による疲れを溜めない ように、補食のおにぎりをサポーターの母達に作ってもらいました。(選手に好評) 炊飯器の味には劣りますが、アルファ米でも十分美味しく栄養を取れると思います。</p>
セキュリティなど で気をつけたことは ありましたか。	<p>チャーター艇付属の備品で不使用のものは、ホテル選手各自で部屋に保管。 念のため、ホテル部屋のセキュリティーボックスを使用した保護者いた様です(必要に応じ) ホテル近傍に歩いて行けるお店が全くないため、ホテル内とハーバーの往復のみなので、治 安の悪さなどを感じることは一切ありませんでした。</p>
荷物に関して工夫 したこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自:スーツケース1個+手荷物1個(リュック等) ● 各家庭:予備セール1枚(機内持ち込み用にダンボール、学生服ケース、IKEAバックを使用) ● 代表者:レースセール(ボイド管×3本:2本でも物理的には可能だが、メンバーが各所に分散していることから3本とした)
日本との通信状 況、手段	<p>日本との通信状況において、特に問題となる点はありませんでした。 通信環境の確保は、①マスカット空港でシム購入、②日本出発前にWi-Fiレンタル、③ホテル Wi-Fi使用 の3つで対応。③は安定度と速度に難ありましたが、使えないことはありません。 ストレスフリーで使うのであれば、①がベストと思います。 メンバー全員とも海外ローミングは使っておりません。</p>
他国チームとの国 際交流の実施	<p>選手同士のTシャツ・写真撮影等交換を行いました。SNSが普及している世代のため、連 絡先の交換等に行っていました。</p>
持参してよかった 食品、医療品等	<ul style="list-style-type: none"> ● おにぎり用のアルファ米、味海苔、フリカケ。 大会側から配布されるランチボックスに加え、海上での補食用おにぎり2個を準備。また 帰着後の片づけ時の糖質補給用に1~2個のおにぎりを選手に配布。 ● ポカリスエット 中東沿岸部特有の気候に慣れていないと、水分のみを多く取り過ぎる傾向にあるため、体 内電解質バランスが崩れやすい。海上では熱中症防止のためポカリスエットを中心に準備 。ペットボトルに4本(選手1名につき2リットル+予備)を準備 ● 帽子 日中の最高気温が37℃程度まで上昇することがあり、熱中症対策として帽子を被らせま した。開催国のオマーン選手は何も被らない選手が多数いましたが、殆どの選手が帽子 を着用していました。(サンバイザーでは頭部の温度上昇が防止できない)

	<ul style="list-style-type: none"> ● 頭痛薬、マスク 屋外とホテル内の気温差が10℃以上あるため、頭痛になる選手が数名、軽微なサンドストームがあり、屋外に出る際はマスクを着用した選手もいた。(マスクはがあると便利というだけでマスクではないと思います)
次回参加者へアドバイス	<p>渡航前～大会期間中の運営側との密なコミュニケーションを心掛けることで、情報が入りやすくなります。それにより漠とした不安が軽減され、普段通りの行動が出来るようになります。</p> <p>また、レースに参加する選手に限らず最低限の英会話を身につける必要があります。</p>
JODAへの要望	<p>NT合宿でチーム毎に配布されるクーラーバックは保冷性能が高くなく強度も弱いので、廃止を検討頂いてもよいかもしれません。</p>
その他	<p>選手10名のうち、中2が3名、中3が7名、所属クラブもバラバラでしたが、選手同士はとても仲が良いチームでした。この強い絆のまま、今後もセーリングを続けてくれると嬉しいです。オマーン自体は治安が良く、国民性も穏やかですが、近隣湾岸諸国に対し不安を持たれる保護者も少なからずいましたので、事前に在日日本オマーン大使館へ、大会概要、滞在期間、参加者名簿および緊急連絡先等を連絡するなどの万全を期した対応をしました。</p>

ご協力ありがとうございました
JODA海外派遣委員会